

歯科医療の国際傾向について (歯科技工のアジアの現状)

近年、歯科技工の機械化が進み、国内はもとより海外でも歯科技工技術が大きな変化をしています。手技中心の時代の歯科技工においては中国、台湾、韓国などは、日本の技術を学ぶという時代でした。ところが、最近の機械化により日本と同等の補綴物の製作が可能になり、設備においては日本のラボを凌ぐ素晴らしい所もあります。一方で、アジアの中でもまだ、歯科技工教育が十分になされていない国もあります。これらの事を理解した上で、日本歯科技工士会として、(公財)国際医療技術財団(JIMTEF)の支援を得て、2年前よりベトナムに対して公益事業の一環として、日本の歯科技工技術の提供を目的として調査を行い、ハノイにある国立中央歯顎顔病院と技術供与の覚書を取り交わし、今年の3月ハノイにてセミナーを開催いたしました。今年より本格的な活動を始めます。この講演を通してアジアの一部分の事ではありますが、グローバル化が進む中で日本の歯科技工がおかれる状況を考えるお役に立てば幸いです。

日本歯科技工士会副会長 西澤 隆 廣